

## 神奈川県称号審査会（剣道 錬士・教士）要項（一部改定）

**\* 受審規程の実施期間は 令和年9月～令和7年2月 までとする。**

### 錬士号

#### 受審資格

- ◎ 六段・七段受有者で 取得後 1年 を経過した者  
受審日以前2年間に「県剣道連盟」主催以上の講習会に参加し ①～④ の条件を満たしていること
  - ① 日本剣道形 2回 以上 但し、社会体育指導員（中級・上級）認定者は <出席免除>
  - ② 審判法 2回 以上
  - ③ 指導法(合同稽古会) 2回 以上
  - ④ 審判経験 無し
  
- ◎ 五段受有者で、五段取得後 10年以上 経過し 年令 60才以上 の者  
受審日以前2年間に「県剣道連盟」主催以上の講習会に参加し ①～④ の条件を満たしていること
  
- ◎ 六段・七段取得後 1年 を経過した者で、全剣連社会体育指導員資格（中級・上級）認定者は  
全剣連の<小論文提出>が免除されます。 但し、②～④ の条件を満たしていること

### 神奈川県 審査会

- ① 審判実技 : 主審1回 ・ 副審2回 を行う。
- ② 日本剣道形 : 打太刀 ・ 仕太刀 両方を行う。
- ③ 講習会(座学: 全剣連の称号本審査に提出する「小論文」作成方法について(当日開催)  
社会体育指導員資格（中級・上級）認定者を除く全員出席のこと

### 教士号

#### 受審資格

- ◎ 錬士七段受有者で、七段取得後2年を経過した者  
受審日以前2年間に「県剣道連盟」主催以上の講習会に参加し ①～④ の条件を満たしていること
  - ① 日本剣道形 2回 以上 但し、社会体育指導員（中級・上級）認定者は <出席免除>
  - ② 審判法 2回 以上
  - ③ 指導法(合同稽古会) 2回 以上
  - ④ 指導歴を提出 支部会長の承認が必要
  
- ◎ 錬士七段受有者で、七段取得後2年を経過し、全剣連社会体育指導員資格（上級）認定者は  
全剣連の「学科試験」が免除されます。 但し、②～④ の条件を満たしていること

### 神奈川県 審査会

- ① 審判実技 : 主審1回 ・ 副審2回 を行う。
- ② 日本剣道形 : 形の何本目かを指定し、解説・実施させる。
- ③ 講習会(座学: 全剣連の称号本審査に向けての 学科試験の取り組み方について(当日開催)  
社会体育指導員資格（上級）認定者を除く全員出席のこと。

神奈川県剣道連盟  
 平成13年04月01日改定  
 平成16年06月24日改定  
 平成17年12月15日改定  
 平成20年12月04日改定  
 平成23年12月01日改定  
 平成24年04月01日改定  
 平成26年12月01日改定  
 平成28年06月09日改定  
 令和5年2月7日改定

# 神奈川県称号審査会(剣道 錬士・教士)申請資格 受審要項 (一部改定)

**\* 受審規程の実施期間は 令和6年9月～令和7年2月 までとする。**

## <剣道 錬士・教士 審査受審規程>

＜神奈川県剣道連盟 審査規程＞						＜全剣連＞
称号	受審資格	受審日以前〔2年間〕に県剣道連盟主催以上の講習会に参加し、 剣道手帳に規程回数を受講印のある者 (錬士・教士 共通)				審査規程
		日本剣道形 講習会	審判法 講習会	指導法 (合同稽古会)	審判経験 指導歴	
錬士	六段取得後 1年 を経過した者	2 回以上	2 回以上	2 回以上	無し	論文提出
	<特例> 五段取得後 10年 を経過 年令 60才以上の者	2 回以上	2 回以上	2 回以上		
	六段 取得後 1年 を経過した者で、 全剣連 社会体育指導員資格(中、上級)認定者	<免 除>	2 回以上	2 回以上		論文提出 <免 除>
教士	錬士七段取得者で、七段取得後 2年 を経過した者	2 回以上	2 回以上	2 回以上	「指導歴」 受審申請書類に記入し 各支部会長の承認を受ける	学科試験
	錬士七段取得者で、七段取得後 2年 を経過し、 全剣連 社会体育指導員資格認定者	社会体育 中級、上級 <免 除>	2 回以上	2 回以上		社会体育上級 <免 除>

## <神奈川県称号審査会(剣道 錬士・教士) 審査項目・講習会>

区分	日本剣道形	審判法	講習会(座学)	
錬士	(打太刀・仕太刀)両方を行う	(主審：1回)(副審：2回)を行う	全剣連審査に 向けての講習を 全員受講	社会体育(中・上級)認 定者 <免 除>
教士	指定された何本目かを 解説しながら行う	(主審：1回)(副審：2回)を行う		社会体育(上級) 認定者 <免 除>